

TURN LAND プログラムとは

さまざまな「違い」を超えて 多様な人々と 魅力的な日常を創る

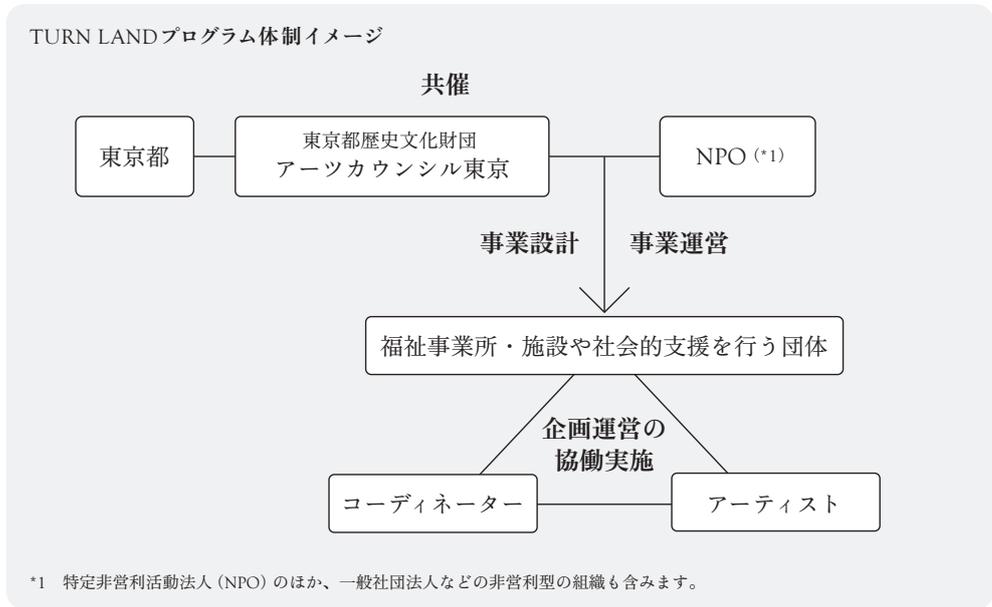
TURN LAND プログラムは福祉施設や社会的支援を行う団体がアーティストとともにアートプロジェクトを企画し、実践するプログラムです。プロジェクトの実践を通して多様な価値観や特性への理解を深めながら、より魅力的な活動を日常の中に生み出します。

※本事業は、東京2020オリンピック・パラリンピックの文化プログラムを先導する東京都のリーディングプロジェクトの一つとして2015年に始動した「TURN」事業（令和3年度終了）を前身に、それまでに育まれてきた施設や団体等との関係性や活動を繋ぎ、展開しています。

TURN公式ウェブサイト：<https://turn-project.com/>

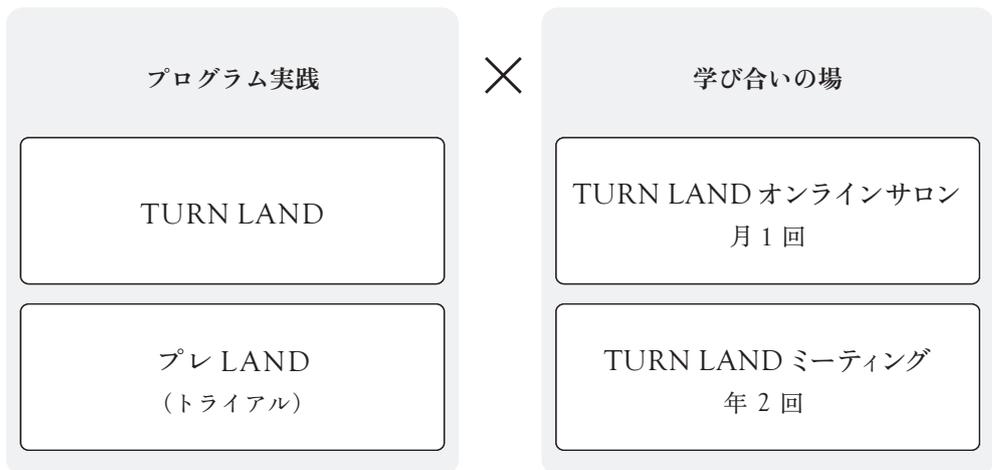
実施体制

実施プロセスにはコーディネーターが伴走し、事務局との連絡調整やアーティストとのコミュニケーション、および現場のファシリテーションなど、現場の状況に応じて運営をサポートします。



事業内容

「プレLAND」と「TURN LAND」の2つを展開します。また、プロジェクトを実施する上で「違い」を力に変えていくためにプログラムの実施と並走して「学び合いの場」を開きます。



TURN LAND

福祉施設や社会的支援を行う団体がアーティストとともに、地域や協力者たちと連携しながらアートプロジェクトを実践します。参加施設や団体が継続的な展開を視野に活動できるよう、運営体制づくりに重点をおきながらコーディネーターが企画運営をサポートします。

プレLAND

福祉施設や社会的支援を行う団体がTURN LANDに取り組む準備段階として、アーティストやコーディネーターとともにアートプログラムを実施する経験を通じて、それぞれの現場に合ったアートプログラムを構想する機会をつくります。



プレLAND — ほうらい地域包括支援センター
路上アートプログラム「オレンジ・ポコペン」では認知症の人や地域の人も多数参加

TURN LAND オンラインサロン

本プログラムに参加する施設の担当職員やコーディネーターがオンラインで集い、現場ごとに異なるアプローチで展開するアートプロジェクトの取り組みについて、対話を通して学び合う場です。毎月1回開催され、各回のゲストに参加アーティストを迎えます。参加メンバーたちの活動背景を聞いたり、現場で抱える葛藤などを分かち合うことで、さまざまな壁を乗り越えるクリエイティブな思考力を高めていきます。

TURN LAND ミーティング

年に2回、本プログラムに参加する福祉施設の職員やアーティスト、地域の協力者等が集い、互いの活動について報告し合う場です。仲間がいることを実感してもらい、新しいことに挑戦する勇気を育て合います。



TURN LAND ミーティング アーティストと一緒に活動を振り返る

ハーモニー

(こころの病のある方を対象とする就労継続支援B型事業所)

ほうらい地域包括支援センター

(地域の高齢者やそのご家族、認知症の方などを対象とする地域包括支援センター)

渋谷区障害者福祉センター はあとびあ原宿

(知的障害者・身体障害者を対象とする入所支援、通所の生活介護や児童発達支援など福祉施設)

豊島区立心身障害者福祉ホームさくらんぼ

(心身障害者の自立助長のための日常生活の援護、支援を行う施設)

気まぐれ八百屋だんだん

(八百屋や寺子屋、こども食堂をはじめ、みんなの居場所と出番を作り出す、民間型の文化センター)

放課後等デイサービス くるみの木・みかんの木

(知的障害児・肢体不自由児を対象に、日常生活訓練や、集団での療育を行っている施設)

放課後等デイサービス フェイト

(小・中・高校生で発達について支援が必要なこどもを対象に、学習支援や居場所づくりなどのサービスを提供している施設)

認定特定非営利活動法人ももの会

(高齢者在宅サービスセンターの運営をはじめ、住み慣れた街で安心して暮らし続けるために、地域福祉ネットワークづくりの活動を行っている団体)

クラフト工房 La Mano

(障害のある人とない人が共に物づくりに励んでいる染織工房)

板橋区立 小茂根福祉園

(住み慣れた地域での私らしい暮らしを支援する知的障がい者通所施設)

ロートこどもみらい財団

(こどもたちが自分らしさを探求できるオンラインコミュニティなどの「居場所」を提供している財団)

CINEMA Chupki TABATA

(目の不自由な人、耳の不自由な人、車いすの人、子育て中の人をはじめ、広く一般の人に開くユニバーサルシアター)